

消化器・肝臓センター

NEW 一冊 NO. 38

2018.8

慢性肝疾患における肝線維化診断

肝線維化の評価について

肝線維化の程度を正確にステージ分類することは、慢性肝疾患に対する治療効果の評価と発癌を予測するのに非常に重要です。肝線維化の診断や評価のゴールデンスタンドは肝生検ですが、侵襲的方法である上に、サンプルサイズが小さいためサンプリングエラーも起こりえます。血液検査の結果も使用されますが、肝臓とは関係のない要因によって影響されます。

shear wave elastographyとは

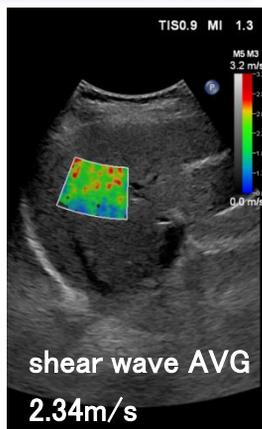
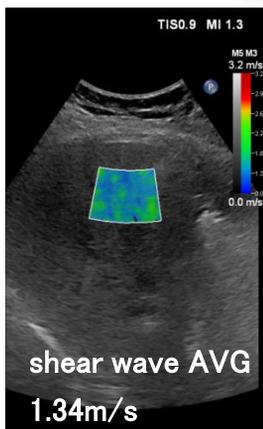
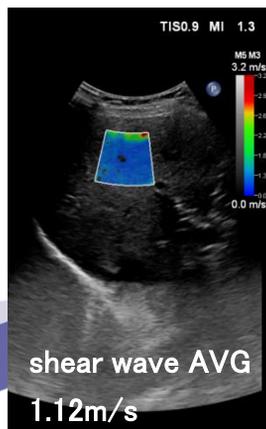
近年、超音波診断装置を用いた組織硬度を定量的に評価できる肝弾性イメージング法は、注目されている新技術です。その技術の1つに、shear wave elastographyがあります。

shear wave elastographyは、非侵襲的に、再現性よく、簡単に肝線維化を評価する方法です。原理は、トランスデューサから照射されたプッシュパルスが、組織の一部を変形させ、その組織が元の位置に戻ろうとするときに発生する剪断波(shear wave)の速度を検出して、組織の硬さを数値化します。剪断波は、硬いほど速く組織中を伝播します。当院にも、今年1月より、shear wave elastographyが搭載されたPHILIPS社製 超音波画像診断装置 EPIQ 7Gが導入され、肝線維化の評価に役立っています。

臨床検査科 ・ 下川 秀司 ・ 山本 倫江



当院での
shear
wave
実測値



KAZUKA

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865



硬